

## シンガポールで星を撮る マーライオンとオリオン

この9月に夫婦でシンガポールに観光旅行に出かけました。シンガポールというとビル群が立ち並び街も明るくて星屋的にはあまり縁がありません。でもせっかく赤道直下の地に行くわけですから、あわよくばとの下心を秘めて、荷物にはカメラ・三脚・レリーズの3点セットをしまいこみました。

そのような期待を打ち砕くように、シンガポールに到着した時は土砂降りの雨で、天気予報も芳しくなく、幸先の悪い出だしでした。しかし、2日目後半からは天候が回復して、その後の2泊は天候に恵まれ、夜明けに起きだしてホテルの周りから少しだけ星空を撮影することができました。外国の不慣れな土地でうかつに夜中に外出するのはリスクがあるため、行動範囲が狭くなってしまふのは止むを得ませんが、それでもできることはいくらかもあるので、折に触れ旅のスナップを撮り溜めていこうと思っています。そんなことで、今回の1枚は、寝たままの姿で昇ってくるオリオン（いちばん右）であります。比較のために日本とアラスカで撮ったオリオンを並べると、星座の傾きが緯度によって随分と異なっていて、地球が丸いのがよくわかります。



上はマーライオン、下はオリオン



アラスカ  
北緯 65 度

日本  
北緯 34 度

シンガポール  
北緯 1 度

## Books & CDs ディスカバリーとオーヴィル

海外のSFテレビドラマと言えばなんといってもStarTrekであります。本家では2017年からStarTrekDiscoveryの放映が始まり、最近になって日本でもNetflixで視聴できるようになりましたが、残念ながら我が家は契約をしていないので見る事ができずにいました。

そんな折、過日のシンガポール旅行の際、機内エンターテインメントシステムの中にこの番組があるのをみつけて往路でいき見をすることができました。ただ、今までのシリーズと比較すると少々雰囲気はダークになっているのと、何よりも字幕が無いのとで5話あたりまで見たところで疲れてしまって、そこで中断となってしまいました。

そこで、復路でも続きを見ようとメニューを漁ったところ、「宇宙探査艦オーヴィル」という別のドラマシリーズがあるのを発見しました。こちらのほうは、物語の雰囲気はまんまStarTrekなのですが、随分とノリが軽くて安心して見られるところが良い感じで、名古屋に到着までの間に5話分くらいまでをまとめて見る事ができました。

そんなことで、いずれも中途半端な見方をしまい、いささか欲求不満状態になってしまったところ、運よくスカパー(FoxE&S)で10月から「宇宙探査艦オーヴィル」の放映が始まりました。こちらは字幕もあるので、途中で意味不明に陥らずに済み、さらに安心して見る事ができます。あとはDiscoveryですが、さてどうしたものか。

## ジャコビニ彗星の日 かくも話題の多い彗星

6年7か月半で太陽を巡るジャコビニ・ツィナー彗星（以下「ジャコビニ彗星」と略）が、この夏に回帰してきました。特にこの9月は、秋から冬の天の川の中を通過して、星空の名所を次々と横切り、素敵な構図になることが期待されたのですが、いかんせん天候に阻まれるばかりで、機会を逸していました。そのような中で、9月19日の朝、わずかな晴れ間をついて、たった30秒露出2コマだけですが、記念写真だけは押さえることができ、まずはめでたしでありました。

さて、この彗星は、（周期の関係で、）1985年の回帰の時にも今回と同じようなコースをたどっています。個人的な話ですが、ちょうどその頃、仲間と旧大宮町に共同の天文台（藤坂観測所）を建設しようと計画していて、ある10月の夜中に予定地の下見に出かけたとき、双眼鏡で冬の天の川の中にこの彗星を見つけ、空の暗さを実感したことが強く印象に残っています。そんな意味でも、今回の回帰はとても感慨深いできごとでした。

また、ジャコビニ彗星というと私たちのような60歳前後のかつての天文少年少女にとっては黒歴史をまとった星でもあります。46年前の1972年の回帰の際に、彗星と地球の位置関係が良くなり、地球が彗星の軌道を横切る10月8日

の夜に大流星群が見られるのではと、日本中でマスコミを上げて期待が高まりました。当日、私も満を持して友人たちと公園に出かけ空を見上げたものの、結局1発の流れ星も見ないまま夜明けを迎え、天文現象の予想はアテにならないと、大ハズレをつかんだ典型例となりました。

その後、この流星群は、1985年の同月同日の夕方に突発的な大出現を起こし、偶然にも帰宅中の道すがらに巡り合うことができ、少しはリベンジすることができました。

かくも様々な話題を提供してくれるジャコビニ彗星です。10月の闇夜にもう一度見てみたいですし、あと、10月8日は一応流れ星のチェックも忘れずにしないとイケません。



## メカが大好き M1で対角魚眼レンズを使うこと

FujifilmのX-M1は、APS-Cサイズの割には小型軽量なので、旅行先などで星空スナップをするのにとっても便利なカメラです。しかし、このカメラのためにどこまでレンズを揃えるのか（結構高いし）悩ましくて、バリエーションを広げるため、マウント変換アダプタを介して手持ちのNikonのレンズを装着したりして楽しんでいます。

ところが、最近のNikonのレンズは、本体に絞りリングが無いので、アダプタを介するだけでは最小絞りに固定されてしまって使い物になりません。そこで、手持ちの対角魚眼レンズを、せめて開放絞りだけでも使えるよう絞りレバーにプラスチック板で詰め物の細工を試みたところ、これ

が予想外にいい感じに使えました。あとは、このレンズをNikonのカメラで使うときに外し忘れることのないようにしなければいけません。



白いプラ板が詰め物

## 編集雑記

9月は盛りだくさん。本当に久しぶり（ひょっとして2016年以來か？）に赤道儀を使って星野写真を撮りました。勤が鈍っていなくて良かったです。